

原子力委員会
長計についてご意見を聴く会(第17回)の結果について

1. 日時:平成16年10月20日(水) 17:00~19:15
2. 場所:青森グランドホテル 平安の間
3. 出席者:
 発言者(6名)
 芦野 英子(弘前市)、荒木 茂信(東北町)、木村将人(尾上町)、
 呷 清悦(天間林村)、二本柳 晴子(六ヶ所村)、三笠 朋子(八戸市)
 会場参加者 約340名
 原子力委員会 齋藤伸三委員長代理、木元教子委員、前田肇委員
 新計画策定会議
 井上 チイ子(生活情報評論家)
 笹岡 好和(全国電力関連産業労働組合総連合 会長)
 末永 洋一(青森大学総合研究所 所長)
 伴 英幸(原子力資料情報室 共同代表)
 吉岡 斉(九州大学大学院 比較社会文化研究院 教授)
 (プレス) 16社
4. 概要:
 芦野 英子(弘前市)
 - ・ 食料の自給とエネルギーの自給、そして、環境問題を考えなければならぬ。原子力発電所での不祥事により原子力に対する国民の信頼を失ったが、放射能被ばくによる死亡事故は一例もない。
 - ・ 科学はある意味で悪だが、原子力については科学を信じれば希望的観測もできる。人間の英知を向けて欲しい。安全管理に力を入れて欲しい。
 - ・ ガラス固化体の処分より、直接処分の方が、処分場の面積が必要となる。立地をどこに求めるかという問題も出てくる。
 - ・ コストが高くて、より安全なガラス固化体を埋めた方が良いのではという意見も出てくるのではないか。
 - ・ 私たちの責任で子供たちに受け継いでいくために、ここで踏みとどまって責任を果たさなければならない時期ではないか。
 - ・ 今ある原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場等、後始末を真剣に考えることが必要。この問題は青森県だけでなく、国民全てが認識し、協力してもらわなければならない。

荒木 茂信(東北町)

- ・ 関係者から「最新の技術です」、「技術は確立されている、大丈夫」と聞かされてきたが、そうは思えない。「安全です。安心です。」と聞かされてきたが何回だまされたことか。
- ・ 民意を拾っていない。県が核燃料サイクル受入を決めたとき、私自身も私の周りも関係者から意見を聞かれた覚えがない。どこでどのように民意を拾ったのか非常に疑問を抱いている。
- ・ 原子力発電のコストは他の電源と比べて安いと言われてきた。しかし、世界で一番電気料金が高い日本でのことである。
- ・ プラスとマイナスがある。それを正直に言って欲しい。それを言わないから余計な不信を生むことになる。誠実さがないと安心できない。安心できないからわからない。だから反対する。
- ・ 「戻る勇気」を考えたい。撤退する、立ち止まる、振り返るスタンスで考えて欲しい。

木村将人(尾上町)

- ・ 私も電気を使っている。一方で原子力発電は危険な代物だとも昔から認識している。どこかで納得し、我慢し合うことで、現実を見て行かなくてはならないのではないか。日本人には大人の間が育ってきていると思う。「だめなものはだめ」という姿勢では、そこから何も生まれないのではないかと思う。
- ・ 日本原燃で不祥事が続いたが、「これから頑張ります」というなら信じるしかない。そうして電気をしっかり確保して、と頼むしかない。青森県民も六ヶ所で働いている。そこで働く人が誇りを持って働けるよう、国の施策でバックアップして欲しい。
- ・ 今は本当に危険な野菜かどうか測定してわかる世の中になってきた。視野を広げてみれば、意外と大きな青空が見えるのではないか。
- ・ 日本原燃は、前に進むためには、毅然としたリーダーシップも必要ではないか。

啗 清悦(天間林村)

- ・ 再処理工場は農業者にとって疫病神でしかない。
- ・ 時代はすでに中央集権から地方分権になったことを知らず、いまだに中央で決めたことを地方に押しつけることができている。世間の感覚とかけ離れている。国民にとって原子力発電も再処理も

最も危険と思われる存在にもかかわらず、原子力マナーの虜になったような人は何があっても安心安全と主張している。

- ・ 青森県は最終処分地にならないと決まっている以上、再処理に必要な最低条件は、事前に最終処分地を確定させること。フランスとイギリスに再処理をお願いしたプルトニウムを使うべき。再処理工場を今動かす必要性はない。
- ・ 三沢の米軍基地がそばにあり、六ヶ所村が候補地になった時点で、建設地に適さないと言うべきだった。
- ・ 「国民的議論」「国民合意」が大切。危険性も一緒に伝えないといけない。国民に覚悟を持たせないといけない。

二本柳 晴子(六ヶ所村)

- ・ 下北半島はやませの影響で農作物が不作で、工業発展も遅れていた。閣議決定した石油化学コンビナート建設計画も石油備蓄基地のみにとどまるなど、住民として下北開発の難しさを実感させられる一方、国策への不信感が募った。
- ・ 地元住民として再処理工場の正しい知識を持つと勉強を始め、説明を聞き施設を見学し、経験を通して国のサイクル政策の必要性を確信した。再処理工場も日本原燃が安全に操業して欲しい。
- ・ 六ヶ所村は核燃料サイクル施設を受け入れたことで出稼ぎが減り、経済、教育、文化面で躍進をとげた。今後も核燃料サイクルを他に誇れる地元産業として育てていくことが大切。原燃との共存が地域発展につながると確信している。
- ・ 国は、立地を受け入れた先人の努力や苦勞を忘れず、住民の気持ちを理解し、核燃料サイクルがより安全、円滑に進められるよう政策決定して欲しい。同時に、核燃料サイクルの必要性を国民に理解してもらおう努力を続けて欲しい。

三笠 朋子(八戸市)

- ・ 昨年の県民意識調査では、核燃料・原子力関係施設の安全性に不安を感じている人が81.6%もあった。私もいまだに再処理工場が必要だという説明に納得できない。政策の進め方に県民の意志が反映されているという実感が無い。
- ・ 国策だから大丈夫だと言うが、放射能の寿命を考えると、国が管理するなんて信じろという方が無理な話だ。放射能被害はこれから

先の若い世代が受ける。気の遠くなるような長い時間で考えなければならぬ原子力の長期計画とは、何年先まで見据えたものなのか。青森の子供達が将来にわたって何の心配も不安もなく暮らし、青森に生まれたことを誇っていけるのか。フランスの再処理工場の周辺では子供の白血病等に苦しんでいる。

- ・ 勇気ある良識ある判断をお願いしたい。再処理なんてとんでもない、原子力発電も今すぐ止めて欲しいくらいだ。これ以上、次の世代へ負の遺産を増やさないで欲しい。

会場参加者

- ・ エネルギー保障、安定したエネルギーの確保のため原子力は必要。コストだけの議論ではなく、必要性について十分議論し、それが理解されるようにして欲しい。
- ・ 放射性廃棄物を子孫に任せることは倫理性に欠如している。今の生活を変えていかないといけない。
- ・ 再処理工場は六ヶ所村にとって雇用の面で無くてはならない存在。
- ・ 昔は反対運動もしたが、日本原燃が誠意を尽くしたので受け入れるようになった。日本原燃は、原点に立ち戻り、信頼を取り戻し、地域と共生できる会社になって欲しい。国民の理解が得られるよう努力が必要。
- ・ 試算隠しが当時わかっていたら、六ヶ所に再処理が来なかったのではないか。
- ・ サイクル事業を容認している。将来を見据えた六ヶ所村であるために共存共栄が必要。人的安全論を強調して対応して欲しい。
- ・ 資料の字の大きさが極端に大きかったり、小さかったり、読める資料を配付すべき。立地地域に何度も足を運び意見を聴いてほしい。
- ・ 自然に優しいエネルギーが良い。原子力発電はそれでない。
- ・ 農作物に対する風評被害が心配。なぜ青森県だけに廃棄物がくるのか。原子力発電所の立地地域にもその苦しみをわかってほしい。
- ・ 国のエネルギー政策に貢献し、協力している六ヶ所村は全国民から感謝されるべき。
- ・ 10年後、20年後に原子力に代わるエネルギーが出てきて、原子力のゴミだけが青森に残ったら、誰が責任をとってくれるのか。

以上

